



鬼は渡辺さんが嫌い？

『御伽草子』（おとぎぞうし）の「酒吞童子」（しゅてんどうじ）の話を紹介します。（日本古典文学体系38 岩波書店 昭和33年7月 校注者 市古貞次）以下、拙いですが、あらすじをまとめてみました。

平安時代、民衆に寄り添った政治が行われたため世の中が大変よく治まっていたが、不思議なことがあった。丹波国（京都）の大江山に鬼神（その親分格が酒吞童子）が住んでいて近隣の人々をさらっていったり都では17、8歳の美しい容姿の娘を取ったりしているという。そんな折り、池田の中納言くにかたの13歳になる一人娘も行方知れずとなった。宮中で有名な占い師を招いたところ、これは大江山の鬼神の仕業であるが命に別状はないとのことであった。帝から鬼神退治の命令を受けたのが、源頼光（みなもとのよりみつ）で、碓井貞光（うすいさだみつ）・卜部季武（うらべすえたけ）・渡辺綱（わたなべのつな）・坂田金時（さかたきんとき）・金太郎（きんたろう）・藤原保昌（ふじわらやすまさ）の5人を従え「山伏」に身を隠して大江山に向かった。道中、妻子を取り返しに来ていた3人の翁に会う。一行は三人の翁から、酒を譲り受ける。酒吞童子は酒が好きだから飲ませて酔いが回ったところを襲えという助言を受ける。山を分け行くと、一人の娘が川で何かをしている。鬼に血を絞られた別の娘の着物を洗わされていたのだった。その娘の案内で、鬼の住む岩屋にたどり着く。酒吞童子は最初驚くが、どのようにここまで来たのか話してみろと言われた源頼光は、ここまでに至った修行の苦勞を子細に答える。話の途中、酒吞童子は、頼光・貞光・季武・綱・金時・保昌6人が本人ではないかと疑い始めるが、頼光は「文武両道」なので、上手にはぐらかして、持参した酒を献上する。すっかり安心した酒吞童子は酒宴を始めた。頼光一行は酒吞童子はじめ家来の鬼どもを飽きさせないため歌を詠んだり舞を舞ったりしているうちに酒吞童子は酔って別の部屋に寝てしまった。今がチャンスとばかり酒吞童子の部屋にいくと、手足が鎖で縛られ四隅の柱に縛り付けられていた。これは、6人が大江山に向かう前に願掛けした、石清水八幡宮、住吉神社、熊野権現の神々（先の3人の翁）で「酒吞童子を動けなくした。頼光は首を切れ、残る5人はずつたに切り捨てろ。」とおっしゃって姿を消された。頼光は酒吞童子の首を切ると首は天に舞い上がり頼光の兜に食いついた。渡辺綱と茨木童子が取っ組み合っているところに頼光が茨木童子の首をはねた。6人は剣術・武術を駆使して鬼どもをことごとくやっつけた。捕らわれた人々は都へ帰り家族との再会を果たした。ただ、無残にも鬼の犠牲となった者もいた。頼光は帝から弓矢を与えられ、たくさんのご褒美をいただいた。

もう、おわかりかと存じますが、鬼退治した6人の中に「渡辺綱」がいましたね。その後、鬼仲間は子孫に決して渡辺というものには手を出すなと言い伝えたので、渡辺家では節分に豆をまいて「鬼は外」と言う風習はないそうです。この「渡辺綱」実は、お隣の箕田地域出身でして、「宝持寺」は渡辺綱が建立したとのことです。

ところで、鴻巣西中周辺には何か、古くから伝わる言い伝えとか昔話とか伝説とか慣習とかあるのでしょうか？ あるいは、有名な人物を輩出しているのでしょうか？ 荒川沿いなので荒川にまつわる昔話はありそうです。熊谷の久下（くげ）には、昔、洪水の時、大ウナギが村人を救ったということでウナギを食べる習慣がないとのことです。有名な人物といえば「しろやま学級」の由来となった「伝源経基館跡」の源経基（みなもとのつねもと）がいます。どんな人物でどんな功績があったのかは生徒の皆さんにはぜひ調べてほしいと思います。学校運営協議会の委員からは、地元鴻巣に誇りをもつ生徒になってほしいというご意見がありました。江戸時代には中山道の宿場町として大変栄えていたとの話もありました。現在の状況を知ることもちろん大切ですが、「故（ふる）きを温（たず）ねて新しきを知る」ということもあります。（橋本 浩）